

**日本医学柔整鍼灸専門学校 柔道整復学科
平成 28 年度第 1 回 教育課程編成委員会 議事録**

日時 平成 28 年 9 月 14 日（水曜日）18 時～19 時

場所 日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 102 教室

出席 委員	伊藤 遼史（公益社団法人東京都柔道整復師会 副会長）	計 4 名
	小泉 利幸（三進興産 営業部長）	
	佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）、欠席	
	深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）	
学校	道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）	計 4 名
	奥田 久幸（校長）	
	岸本 光正（副校長）	
	木下 美聡（学科長、議長）	
事務局	大隅 祐輝（学科教員）	計 2 名
	小杉 泰輔（部長）	
	松丸 浩子（次長）、欠席	
	大友 員彦（教務グループ係長）	
合計 10 名、敬称略		

議題等

1. 教育活動

教育の中身で勝負する集まる学校への戦略 3 年計画の 1 年目として、魅力あるカリキュラムから魅力ある授業へ、非常勤講師も含めた一体感、卒業生・外部との連携による実践力強化を掲げ、やるきスイッチを張り巡らし、学生の自主性を促す仕組みを構築した。その取組状況であるカリキュラムマップ、教員の教育力向上、国家試験合格支援体制の充実、カリキュラム編成の更なる見直し、付属施術所の機能強化を報告した。

（委員の意見）

・アクティブラーニング（AL）はどんな授業か。学生のレベル・教員のレベルを合わせ、取り入れやすい授業で実証事例を供給しながら進めてはどうか。

（学校の回答）

・人に教えることが一番の学びという観点から、中高生で開始されている参加型教育手法のひとつである。本年度より学内でプロジェクトチームを発足し、検証しながら進行している。柔道整復師の養成校で初めて本校の専任教員授業の動画が AL のサイトにアップされる予定である。

2. 態度マナー教育

教育活動の取り組みのうち、挨拶運動の実施状況、授業時の挨拶の徹底、新入生オリエンテーションの実施状況を報告した。

（委員の意見）

・ここまで教育しなければいけないのか驚く。学生が来校者にしっかり挨拶していて気持ちいい。号令をかける経験は貴重であり、一人の学生に限定しないほうがいいのではないか。

・参考までに会社では相手を笑顔にする、良いところをメモする研修を実施している。カリキュラムの変更により 300 時間追加されるが、科目には画像診断もあるのでしっかり取り組んでほしい。

(学校の回答)

・態度教育には挨拶が大事であり、新入生だけでなく2・3年生にも挨拶に関する指導を行っている。ON・OFFをしっかりと切り替えるために、まずは教職員が研修し学校で統一したが、改めて教員に徹底を求めている。

3. 平成26・27年度委員会の意見と取組状況

臨床現場で役立つ知識や技能の習得、早期臨床体験実習（EEP）の実施状況、卒業後インターンシップ制度、平成28年度施行カリキュラム、道德教育の習得、施術所の意見に対し、取組状況を報告した。

4. その他

次回の委員会日程を次のとおり確認した。

・平成29年2月15日（水）18時開始

以上

日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科 平成 28 年度第 1 回 教育課程編成委員会 議事録

日時 平成 28 年 9 月 15 日（水曜日）14 時～15 時

場所 日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 102 教室

出席 委員	伊集院 克（公益社団法人東京都鍼灸師会）	計 4 名
	菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）	
	藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）	
	前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）	
出席 学校	前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）、欠席	計 5 名
	奥田 久幸（校長）	
	岸本 光正（副校長）	
	青木 春美（学科長）	
	三村 聡（学科教員、議長）	
出席 事務局	渡邊 靖弘（学科教員）	計 3 名
	小杉 泰輔（部長）	
	松丸 浩子（次長）	
	大友 員彦（教務グループ係長）	
合計 12 名、敬称略		

議題等

1. 教育活動

教育の中身で勝負する集まる学校への戦略 3 年計画の 1 年目として、魅力あるカリキュラムから魅力ある授業へ、非常勤講師も含めた一体感、卒業生・外部との連携による実践力強化を掲げ、やるきスイッチを張り巡らし、学生の自主性を促す仕組みを構築した。その取組状況であるカリキュラムマップ、教員の教育力向上、国家試験合格支援体制の充実、カリキュラム編成の更なる見直し、付属施術所の機能強化を報告した。

（委員の意見）

- ・アクティブラーニング（AL）とは何か。
- ・カリキュラムの改編等、教員側の意識は変化しているか。

（学校の回答）

・AL はこれからの入学生はすでに学んでいる時代であり、授業形式が大きく変更するので、専任教員は春に、非常勤は秋に研修を行い対応した。

・まだ数字に表せないが学生の反応が変わった。自ら学んで実践する、全員に徹底する、あるべき姿を最初に考える 3 点が肝心である。教職員も刺激を受け、学科間や教職員間の隔たりがなくなっている。

2. 態度マナー教育

教育活動の取組状況のうち、挨拶運動の実施状況、授業時の挨拶の徹底、新入生オリエンテーションの実施状況を報告した。

（委員の意見）

・学生の態度・マナーの実態に驚いている。学生が挨拶をすると学校の雰囲気が変わる。態度マナー教育は、将来必ず現場で生きてくるので継続してほしい。

(学校の回答)

・教職員の変化が学生に伝わるので、統一した指導していることを発信することが大事である。挨拶はスイッチの ON と OFF であり、メリハリをつけることが大事である。2・3 年は無理と思ったがしっかり挨拶する。今後も業界の発展につながる人材を育成し社会貢献していく。

3. 平成 26・27 年度委員会の意見と取組状況

臨床現場で役立つ知識や技能の習得、早期臨床体験実習 (EEP) の実施状況、卒業後インターンシップ制度、平成 28 年度施行カリキュラム、道德教育の習得、施術所の意見に対し、取組状況を報告した。

(委員)

・EEP に協力した治療院に結果をフィードバックしてほしい。教職員も臨床現場を見学する機会があったほうがいい。

(学校)

・早速に検討する。

4. その他

次回の委員会日程を次のとおり確認した。

・平成 29 年 2 月 16 日 (木) 14 時開始

以上

平成 28 年度 第 2 回 教育課程編成委員会(柔道整復学科)議事録

【日時】平成 29 年 2 月 15 日（水） 18 時～19 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 伊藤 述史（公益社団法人東京都柔道整復師会 副会長）
小泉 利幸（三進興産 営業部長）
佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長） 計 5 名
学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
木下 美聡（学科教員、議長）
伊藤 恵里（学科教員） 計 4 名
事務局 松丸 浩子（次長）
大友 員彦（教務グループ係長） 計 2 名
合計 11 名、敬称略

< 議題 >

1. 当校の現状と 2022 年（学校の 20 周年）に向けての取り組み

当校の現状と 2022 年に向けての取り組みについて報告。

当校の教育理念、教育目標をもとに、ビジョン（「他者オリエンテッドの心と自ら生き抜く力を持ったグローバルで活躍できる統合医療のパイオニアを育成します」）を策定。また、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定し、ビジョンと 3 つのポリシーの具現化に向けての具体的な取り組みを報告し、意見交換した。

（委員の意見／質問）

・「他者オリエンテッド」について他人を敬うということを学んでもらうために、どのような教育をしていくのか？

例えば、男性が女性を施術する際に女性が気になる点に配慮することができるようになるための授業をした方がよいのではないか。

（学校の回答）

態度、マナー教育の中で、相手を思いやる心を育成することができるかもしれないが、具体

的な指導方法は、授業の中で実施するのか、授業以外のところで指導するのが良いのかは今後を検討していきたい。

・教育においては、教える側の想いが一方通行にならないように配慮した方がよい。小売りをしている一般企業においても、店舗を「売り場」でなく、「買い場」だと意識するように指導している。教える側と学生サイドからの両方の目線をしっかり意識して教育について考えるべき。

(学校の回答)

教える側と学生側の両方の目線で教育について考えていきたい。

・ビジョンやポリシーを策定したことは非常に良いが、国家試験対策もしっかり行うべき。

(学校の回答)

今年度国試試験対策を学校一丸となって取り組むために、校長主導で国試対策プロジェクトチームを立ち上げた。3年生への対策も必要だが、1, 2年からの対策も重要視して進めており、来年度は、さらにプロジェクトを委員会へ移行し、今年度以上に注力していく予定。

2. 平成30年度カリキュラム変更に伴う教育内容改訂について

厚生労働省より、現行の85単位以上を99単位以上へ引き上げ、最低履修時間数を2,750時間と改正があった。

その中で臨床力を充実させることが、最重要課題と認識し、カリキュラム策定を行っていることを説明した。

(学校から委員への質問)

現場でかせない重要な能力はどのような能力かご意見を伺いたい。

教育する学校側で育成していく能力と受け入れる現場側で求められる能力をすり合わせて、より実践的なカリキュラムにしていきたいと考えているので是非アドバイス頂きたい。

(評価委員からの回答)

社会人基礎力として挙げられている力はすべて重要と考えている。

(主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律生、ストレスコントロール力)

これらの能力を兼ね備えている人物であれば現場側は是非、採用したいと考える。

以上

平成 28 年度 第 2 回 教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】平成 29 年 2 月 16 日（木） 14 時～15 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 101 教室

【出席】委員 伊集院 克（公益社団法人東京都鍼灸師会）
菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役） 欠席
前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）、 計 4 名
学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
青木 春美（学科長）
三村 聡（学科教員、議長）
渡邊 靖弘（学科教員） 計 5 名
事務局 松丸 浩子（次長）
大友 員彦（教務グループ係長） 計 2 名
合計 11 名、敬称略

<議題>

1. 当校の現状と 2022 年（学校の 20 周年）に向けての取り組み

当校の現状と 2022 年に向けての取り組みについて報告。

当校の教育理念、教育目標をもとに、ビジョン（「他者オリエンテッドの心と自ら生き抜く力を持ったグローバルで活躍できる統合医療のパイオニアを育成します」）を策定。また、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定し、ビジョンと 3 つのポリシーの具現化に向けての具体的な取り組みを報告し、意見交換した。

2. H30 年度カリキュラム変更に伴う教育内容改訂について

- H30 年度カリキュラムに変更概要の説明
- 現場実践力について

3. 質疑応答

【委員の意見・質問】

- ・カリキュラム追加の「コミュニケーション」とはどのような内容を実施するのか？

学校に期待するところは「自分から聞き出すこと＝ヒアリング」を出来るのが重要である
と考えるが、「場に慣れる」ことが重要であると思うのでその機会を増やしてほしい。

(学校の回答)

「コミュニケーション」の具体的な内容の指定はされていないため、ご意見も踏まえ、授業内容も検討していく。

- ・あはき史は可能な限り高学年の授業に取り入れた方が、重要性を理解して学べると思う。
鍼灸についてあまり理解していない1年生で歴史の授業を受けても重要度を分かっていなかったため。

(学校回答)

⇒考慮して時間割を組みたい。

- ・医学部でも取り入れられる医療面接が重要であるということを再認識すべきではないか。
また、OSCE（オスキー）を導入すべきではないか。

(学校の回答)

OSCEが平成30年度から義務付けられるため、準備をしている状況である。

- ・カリキュラムに「医療倫理」を導入してほしい。不正請求もなくなるのではないかと？

(学校の回答)

検討する。

- ・追加カリキュラムの「あはきの適応」と何か？

(学校の回答)

ある一定以上のレベルの症状を超えたら、医療機関と適切に連携して対応することを教えるカリキュラム。

【学校から委員への質問】

現場でかせない重要な能力はどのような能力かご意見を伺いたい。

教育する学校側で育成していく能力と受け入れる現場側で求められる能力をすり合わせて、より実践的なカリキュラムにしていきたいと考えているので是非アドバイス頂きたい。

(委員からの回答)

- ・ ストレスコントロールにあてはまるかかもしれないが、「諦めない力」。
卒業後に就職して一年働き続けるか否かでその後の成長が大きく変わる。
入社後に駄目なら退職して違う治療院に行けばいいというスタンスだと成長しない。
- ・ 「自分ができないこと」を認識する力が必要。
自分は何を知っていて、何を知らないのか。患者様に質問されて、ごまかした説明をしていてはその先々の成長に差が出る。自分が知らないことに対して真摯に向き合うことが必要。
- ・ 人に感謝すること。患者も企業（雇用主）に対しても常に感謝の気持ちを持つことが非常に重要であると考えます。
- ・ 常に患者目線に立って物事を考えること。

【委員からの意見】

- ・ 自分が受ける機会を作ることが大事ではないか。そうすることによって患者目線で施術することがいかに重要であるか分かる。

(学校の回答)

- ・ 検討段階であるが、臨床実習の中で患者目線を学べるようにしたい。

(委員からの意見)

- ・ 鍼を指すことももちろん重要だが、「押し手」の重要性をもっと教えてほしい。「手を作る」ことを学生の時代から教えることが重要だと考える。

(学校の回答)

- ・ 1年生の実技にて重要性を伝えているが、さらに認識してもらうように指導していく。

以上